

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	建築計画Ⅴ
科目基礎情報						
科目番号	0114		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	空間学事典/日本建築学会/井上書院		他は授業ごとに作成した資料を配付する。			
担当教員	工藤 和美					
到達目標						
(1) 住宅や建築, 都市を計画する際、重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方や 技術を理解し説明できる。 (2) 建築計画の応用的な知識や考え方を理解し説明できる。 (3) 建築空間の計画に関する考え方や実務経験に裏付けられた建築計画理論を理解し、歴史的文化的社会的環境が建築にもたらした影響の蓄積を背景に組み立てられた建築計画の考え方について述べるができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築計画で重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方や 技術を理解し的確に説明できる。		建築計画で重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方や 技術を理解し説明できる。		建築計画で重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方や 技術を理解できていない。	
評価項目2	建築計画の応用的な知識や考え方を理解し的確に説明できる。		建築計画の応用的な知識や考え方を理解し説明できる。		建築計画の応用的な知識や考え方を理解できていない。	
評価項目3	建築計画理論を理解し、建築計画の考え方を各テーマに対応して的確に述べるができる。		建築計画理論を理解し、建築計画の考え方を各テーマに対応して述べるができる。		建築計画理論を理解し、建築計画の考え方を各テーマに対応して述べるができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (H)						
教育方法等						
概要	建築計画 1-4 の学習成果の上に、より広範な観点から建築計画を考究し、今日的具体的な問題 を解決するための知識と計画技術を学習する。建築計画における多様な問題や考え方、取り組みについてそれを取り巻く様々な社会的視点を取り上げ事例を通して考察する。また、環境に 関わる建築計画における現代的課題に関する理論、手法についても学ぶ。					
授業の進め方・方法	グループワークを含んだ講義形式とする。週ごとに建築と都市空間の計画的課題についてテーマを設定しグループディスカッションを通して理解を深める。					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が90時間に相当する学習内容である。建築計画の応用的な考え方を身につけ、卒業研究等において総合化できるよう取り組むこと。 建築史と 都市地域計画の履修が望ましい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 前期授業の狙いと、建築や都市が抱える現代的課題を、事例を通じて概説する。		現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて理解できる。	
		2週	都市問題のはじまりといま 都市問題のはじまりから、近代都市と建築について考察する。現代の都市問題についても言及する。		現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて理解できる。	
		3週	近代の都市と建築（その1） 田園都市からアテネ憲章（CIAM）の都市論を中心に、建築家が提案したモダニズムの理想都市の背景と、現代の都市と建築の関連について考察する。		現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて理解できる。	
		4週	近代の都市と建築（その2） モダニズムの建築思想を中心に再考する。近代建築が目指したものの、排除したものは何かを考える。		現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて理解できる。	
		5週	パブリックスペース（その1） 建築と都市のサステナビリティ、コミュニケーションと空間について。		現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて説明できる。	
		6週	パブリックスペース（その2） 都市空間と都市のイメージについて。		現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて説明できる。	
		7週	パブリックスペース（その3） アジア、ヨーロッパ、アフリカの広場や共同空間について事例を通して学ぶ。		住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	パブリックスペース（その4） サードプレイス、町や集落の空間構造と景観について。		都市と農村の計画について理解できる。	
		10週	建築と社会の課題 少子化と都市の問題		都市と農村の計画について説明できる。	
		11週	有機的建築から地域主義について		都市と建築の計画について説明できる。現代都市の特質と課題について説明できる。	
		12週	景観と地域環境 地域と建築のつながりについて		景観形成の基礎的事項と考え方について理解できる。	
		13週	バナキュラー建築と、フィールドワークについて		建築計画の調査を行うための基礎について理解できる。	
		14週	サードプレイスと建築 事例を調査し、空間的特徴と思想について考察する。		現代都市の特質と課題について説明できる。	

		15週	都市と建築の今日的課題 テーマを設定してグループ毎にプレゼンテーションを 行う。		都市と建築の今日的課題を見出し、課題設定ができる 。調査しまとめたものプレゼンテーションできる。		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前14,前15	
				近現代都市の特質と課題について説明できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前9	
				近代の都市計画論について説明できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前9	
				現代にいたる都市計画論について説明できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前9	
				モジュールについて説明できる。	4	前10,前11	
				建築設計に関わる基本的な家具をはじめとする住設備機器などの寸法を知っている。	4	前10,前11	
				居住系施設(例えば、独立住宅、集合住宅など)の計画について説明できる。	4	前10,前11	
				教育や福祉系の施設(例えば、小学校、保育所、幼稚園、中・高・大学など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	4	前10,前11	
				文化・交流系の施設(例えば、美術館、博物館、図書館など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	4	前10,前11,前12	
				医療・業務系の施設(例えば、オフィスビル、病院、オーディトリウム、宿泊施設等)あるいは類似施設の計画について説明できる。	4	前10,前11	
				建築計画・設計の手法一般について説明できる。	4	前10,前11,前12,前13,前14	
				都市と農村の計画について説明できる。	4	前10,前11,前12,前13	
日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。	4	前10,前11,前12,前13,前14					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	レポート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	5	0	35	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	5	0	35	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0